

COLUMN:

来るべきものは、今来なくともいずれくる。
今来れば、あとにこない。あとに来なければ、今来るだけのこと。
肝心なのは覚悟だ

先生紹介 ▶ 松本 鈴 (今津教室)



はじめまして。今津教室でパスカルを担当しております松本鈴と申します。

毎日、熊谷先生や他の先生にご指導いただきながら、指導にあたっています。

今日は、私が生きていく中で決断に迷った

たりした時などに必ず思い出すある言葉をご紹介します。それは「来るべきものは、今来なくともいずれくる。今来れば、あとにこない。あとに来なければ、今来るだけのこと。肝心なのは覚悟だ」という言葉です。

これは、シェイクスピアの四大悲劇の一つである「ハムレット」の劇中で主人公であるハムレットがある決断をする際に発した台詞です。ハムレットの物語を簡単に説明すると、父親を

殺された王子ハムレットが復讐を誓い、復讐のために狂人を装う。という端的に言えば復讐物語です。登場人物は利己的な考え方の人物が多く自分の欲に従って生きていて、ある意味で子供のように動物的で純粋でありその様が滑稽で愚かで、本来の人間の姿が良く表現されている作品だなと感じました。

紹介させて頂いたハムレットの作者、ウィリアム・シェイクスピアはエリザベス朝ルネサンス文学の巨星と呼ばれた偉大な劇作家です。ハムレットが執筆された時代は日本でいうところの江戸時代の直前、徳川家康が幕府開幕に向けて準備をしていた時代でした。シェイクスピアは俳優として活躍する一方、脚本も書き始め劇作家としても活躍。他の作家からも中傷される程名声を勝ち得ていたそうです。

私がシェイクスピアの本と出会ったのは高校1年生の時でした。彼の書く悲劇物語は本当に救いようがない結末が待っていて初めて読んだ

時は衝撃を受けました。そこだけを取ると読む気が無くなる方もいるかも知れませんが、その結末に持っていくまでのお話の流れがとても自然でなるべくしてなった結末だなと感じさせられるので是非読んでいただきたいです。そして登場人物が紡ぐ台詞はとても繊細で人間の本質的なところや本来表には見せない狡く卑怯な部分が良い表現されているなど感じました。

色々なことを考えさせられる本なので是非一度読んで頂けたら嬉しいです。

皆さんもこれから、受験や就職などの大きな決断をする時やコンビニのスイーツを、2つ買いたいけど我慢した方がいいかな??等その時その時で様々な決断があると思いますが、冒頭のハムレットの台詞を思い出し、覚悟を持って(スイーツの選択に覚悟は必要ありませんが…)様々な壁を乗り越えていただけたらと思います。一緒に頑張ってください!

ボードレスな勉強法

先生紹介 ▶ 富田 昌史 (今福教室・パスカルキッズ上本町教室)



こんにちは。10月より開智総合学院の仲間にしていただきました、富田です。大学院で西洋経済史を研究しながら、小学生から高校生までを教えておりました。大学では機会に恵まれ、7か月間イタリアに滞在し、学生と共に寮に住んでいました。今回はその時に感じたことについてご紹介させていただきます。

寮では大学生、院生と共に勉強していましたが、驚いた事がいくつかありました。一つは、勉強量の多さと質、もう一つは彼らの目的意識の高

さです。イタリアの定期試験では一時間程度の口頭試験が多く、1科目の準備に丸2日ほどかかります。そのため学生は、毎日17:00~22:00頃まで45分勉強し5分休憩する、ということを経り返し、その間は一切しゃべりません。「どのようにならぬ勉強方法を身に付けてか」と聞いたところ、異口同音に、「中学のころから周りを見て、身につけた」「当たり前ではないのか」という答えが返ってきたことに驚きました。

また「なぜ学ばなければならないのか」という目的意識が高く、誰に聞いても正確な理由が返ってきます。「仕事のスキルは将来つけられるが、人としての見識は今しかつけられない」という答えが多くありました。自分の大学生時代を振り返り、恥じ入るばかりでした。

このように共に過ごした学生は、自立と自律心を持った大人ばかりでしたが、カイチの生徒も彼らと同じような下地を持っています。中1の「勉強」から、中3の「学習」へとというステップアップが、彼らの自習姿勢・スケジュールシート・「勉強する意義とは」という答えから、はっきりと感じられ驚いています。やはりグローバル化が進む時代でも、カイチや学校で習う「当たり前のやり方」は色褪せないということではないでしょうか。

カイチではまだ驚く事ばかりですが、生徒と共に学び、精一杯、当たり前といえる環境を整えたいと思っております。

これからどうぞよろしくお願いたします。



私の中の最も強い人

～「覚悟」を持って挑むことの大切さ

早いものでもう12月。先生達は競技会や冬期講習、クリスマス会。そして、何より私立受験校決定の三者懇談会があります。

受験校の決定は皆さんの多くにとって、生まれて初めての進路の決定ではないでしょうか。高校は皆さんがなりたい自分になるための人生の入口です。

今、受験勉強に疲れて「もうどこでも決まれば良い」と考えている人もいるかも知れません。でも、少し立ち止まって考えてみてください。

高校受験の「今」はもう二度と戻っては来ません。当たり前のことかも知れませんが、やり直しはきかないのです。皆さんが今選ぶ進路によって、出会う友達や先生、そして、その出会いが高校の向こうにある進路に大きな影響を与えるかも知れません。

皆さんは柔軟です。常に何かに感化され、ありとあらゆる方向に伸び、新しい自分になる可能性を秘めています。

ですから、どうか、目先にとらわれて易きに流れず、自分の可能性の振れ幅を考慮して客観的に進路を選んでください。この過程では大いに家族や学校、塾の先生達と相談してください。



▲進路に悩んだら遠慮なく聞いてください。

そして、最後は自分で決めてください。人は自分で決めることによって「覚悟」を持ちます。これは合否に対する覚悟ももちろん、進学後、もしその学校が想像と違って自分自身の責任とする覚悟です。

この「覚悟」について、先生の記憶に残る1人の生徒がいます。彼の名前はU君。もう10年近く前、私が受け持った生徒です。

彼は、野球部の4番で成績も上々。何も問題のない男の子でしたが、中3の春、クラブのちょっとしたトラブルで、心の歯車が狂い、クラブでも塾でも突然色々な事が出来なくなりました。塾に来てもただ座っているだけ。ノートを取ろうとペンは持っているが、じっと動かない。もちろん当てても、答えられない。でもいつも最終居残りの10時30分まで席にじっと座っている。そんな状態にも関わらず、彼は塾を休みませんでした。ただうつむいてじっと座っていました。

ある日、私が受験の話をもみんなにしている最中、彼は突然過呼吸になり伏せてしまいました。教室が騒然とする中、お母さんに迎えに来てもらい彼は帰宅。しかし次の通塾日に彼はいつも通り席に座っていました。

「U君、いけるか? 授業わかる?」「少しはわかる。でも早く書けない。模試も時間内に殆ど書けなかった。」「せやな。それなら非常勤の笹井先生にゆっくり見てもらうのはどうや。」「うん…。」



▲中3生は受験校決定の三者懇談がスタート。

そこからはカイチの卒業生の笹井先生と彼のペースで勉強を始めました。定期テストも最後まで答案は書けない。でも、書いているところは正解して、定期テストでは、まずまずの成績を取る。笹井先生が就職活動で指導に取れなくなると、彼は私に「笹井先生にありがとう」と伝えて欲しいと言って、また集団クラスに戻り、表情も変えずに黙って座っていました。

そんな彼と12月、私立受験校を決定する三者懇談会を行いました。彼とのやり取りは次のようでした。

(私)「S高校、専願ならなんとかなるよ。S高校なら大学がついているし。市岡は実力が足りない。そもそも受験で最後まで答案が書けるか。それに、市岡に行けばまた、大学入試が待ってる。S高校はどう?」

(U君)「いや、市岡で…。」

(私)「かなり厳しいで、落ちたら私立になる。でもそこは大学はついてないで。」

(U君)「うん。それでも市岡で。」

彼の状態を考えた時、大学附属の私立に行った方が彼の将来にとって良いのではないかという私の提案を彼は退け、昔から志望校に掲げていた市岡を受験する意志を伝えてきました。正直、私はその答えに驚きました。彼は体調を崩してもなお、以前からの志望校をしっかりと見据えていたからです。だから、いくら精神的にまいっていた、勉強が頭に入らなくても、しがみつくように学校にも塾にも通い続けていたのです。

彼の「市岡で…」の言葉には、彼の覚悟がしっかりと宿っていました。受験前日、私は彼を事務室に呼び「今まで、先生が出会った人間の中で、Uほど強いヤツを見たことがない。お前は精神的に病気になるかもしれないけど、それを遙かに上回るほど強い。Uは本当に凄い。明日、しっかりと自分の力を出しきるんやで。」と声をかけました。

そして、彼は、市岡高校に合格、カイチを卒業して行きました。受験は自分の人生を自分の努力と工夫で決定できる人生最大のチャンスです。このような機会は人生に何度もありません。どうか、覚悟を持って志望校を決め、残り数ヶ月の受験勉強に挑んでください。

早いものでこれが年内最後のGROWINGとなります。生徒・保護者の皆様、今年1年、本当にありがとうございました。振り返れば至らないところがたくさんあり、ご迷惑をおかけすることも多々ございました。未熟な私どもが、このように塾を営んでいられるのも皆様のおかげでございます。

日本の教育制度は今、急激な国際化、人口減少に対応するために、大きな変革の時を迎えています。子供達はその激動の中を強く生きていかなければなりません。私達はそんな子供達を、そして、子供達を支えるご家庭をしっかりとサポートできる学習塾になりたいと考えております。

「皆様に期待していただけるカイチへ。そして期待に応えられるカイチへ。」私達も覚悟を持って努力と工夫を続けたいと考えております。新年もどうぞ宜しくお願いいたします。



▲最後の最後まで、諦めず全員で志望校に合格しよう!

カイチからのお知らせ

- 12月22日(土) はクリスマス会です。時間についてはお知らせを配布します。当日、得点券をお持ちください。
- 12月19日(水)は小学診断テストを実施します。
- 12月20日(木)・21日(金)は中学診断テストを実施します。
- 珠算・パスカルキッズ・トーキングキッズは年内の授業は12月21日(金)で終了となります。
- 小学部の冬期講習を12月26日(水)~29日(土)、1月5日(土) で実施いたします。
- 中学部の冬期講習を12月25日(火)~28日(金)、1月5日(土)・7日(月) で実施いたします。
- 進研模試を中1・2生 1月8日(火) 18時~、中3生 1月12日(土) 9時~、小4・5・6生 1月12日(土) 13時30分~で実施いたします。
- 1月9日(水)より通常授業がスタートです。珠算・パスカルキッズ・トーキングキッズはこの日が新年度の授業始めとなります。

Focus

CLASSROOM REPORT 教室レポート



テストに向かって全力を出し切る意味 ～今福学習部の様子

川西 久志 (今福教室)

朝夕冷え込む季節になってきました。受験生の皆さんは体調管理を意識し始めてください。この時期からはインフルエンザのことも考え、予防接種も受けるといいと思います。かく言う私も注射は苦手なのですが、受けてきます。

中学部は11月の下旬に定期テストが行われました。カイチでは恒例の3時間自習、9時間自習が行われ、対策授業ではたった5分でも解説をしようと担当講師は必死。自習中は質疑対応に追われたり、各先生が生徒の解く様子を見て、間違いを指摘してあげたり、個人個人で勉強のやり方を伝えるなどできるだけのことはやりました。

5月頃は自習そのものについてくるのがやっとだった中学1年生も今ではしっかりとこなすようになり、余裕が出てきたのか自習以外に自分で「今から行きたいのですが、教室あいてますか?」という生徒も出始めていて、なかなか頼もしくなってきました。生徒にいつも言っているのは「テスト前は無理をしても点を取りに行くこと」です。全力を出し切るからこそ、結果が出る。仮にその時結果が出なくても次の機会でも出ることも多いです。私達のできることは生徒達の全力を正しい方向にもっていくことだと考えています。私のその言葉に呼応し、テスト中の昼間に勉強に

来て、さらに夜に勉強に来る生徒も増えてきて、最近では昼間にも教室に生徒が増えてきています。「必死で勉強する」意味が分かってきた生徒達が多くなってきたと思っています。

中学3年生は9月からは受験勉強が本格的になり、テストラッシュが続いています。来るべき受験に備え、自分で自主的に学校が終わった夕方から勉強をしに来る生徒は多いです。実は私立高校は2学期の9～11月に行われる学校の実力テストや五ツ木の模擬テストなどで受験校を決定していきます(入試説明で詳しくお話させていただきます)ので、実質的には入試とほとんど変わらない重要なテストになります。併願者はもちろんのこと専願者はここが頑張りどころなので時間のある限り勉強に向かっています。不安になっている生徒も多いですが、受験生に伝えているのは「最後の最後は勉強量に頼ること」です。平日は3～4時間、休日は6～8時間はやるように伝えています。この時期は模試が返ってくるので、模試の正誤表を確認し、誤答の部分の単元を塾教材で徹底的に演習をし直す。わからないところは繰り返し質問することをあきらめずに続けることにより、結果が出ます。

受験を間近に控えた今はどれだけの時間を勉強に費やせるかですべてが決まると言っ

ても過言ではありません。それを証明するかのように、勉強量が多い生徒は必ず模試が定期で実績を出しています。彼らは高校に行った後も、次の進路(例えば大学受験)に向かってまた全力を出していく日々が待っています。大学受験になると高校受験よりもさらに厳しい日々になりますが、今この時に限界まで勉強をした経験が、例えば大学受験の時に役に立つことは間違いありません。また、私自身も生徒の皆さんが将来の受験や社会人で自分なりの成功をつかみ取ってほしいと思っていますので、後悔のないように目的達成のために少しの時間でも勉強を積んでほしいと思っています。



Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育



カイチの冬期講習 平成最後の冬は「やりきる冬」!

井上 陽平 (関目教室)



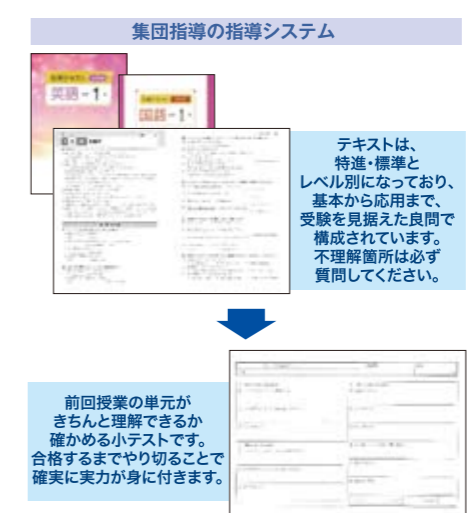
2018年もついに残り1ヵ月。寒さも厳しくなってきました。来年5月で「平成」から新しい元号に切り替わります。なので、この冬は平成最後の冬となります。そんな一つの区切りとなる今年の冬にも、カイチの冬期講習は開講されます。

今回の冬期講習は、受験生にとってはもちろん、小学生、中学1・2年生、高校1・2年生にとっても、成績を上げるために非常に重要な1週間半になります。ですが、何を意識して講習に臨むかによって、その成果は全く異なってきます。生徒の皆さんも、1週間半の冬期講習を、せっかくならば、少しでも偏差値が上がるものにしてほしいですね。では、どのような事を意識して冬期講習に取り組めば良いのでしょうか。それは、**決められた教材を「やりきる」こと**です。

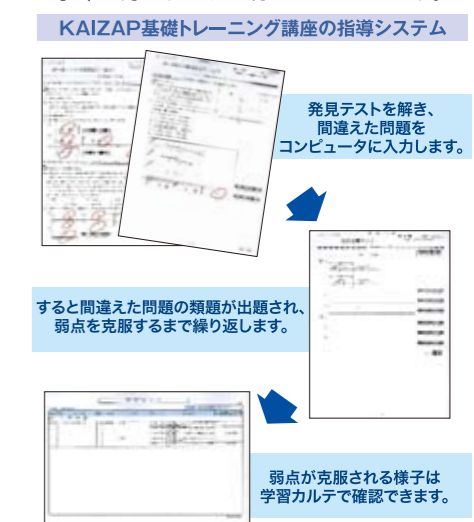
成績が伸び悩んでいる子や、できるだけ早く点数を伸ばしたい受験生が、本屋さんの学習参考書コーナーに足を延ばし、「この参考書わかりやすい」とか、「この問題苦手だったんだよね」と、様々な参考書に目移りするのはよく聞かれます。確かに、本屋さんには素晴らしい参考書がたくさん置いてあります。しかし、それぞれの参考書は、部分的に理解するよりも、その1冊で完結して知識の体系や勉強方法を伝えています。なので、1冊の参考書・問題集をとことんやりきることで、それらの本の真の力が発揮されるのです。色々な参考書に手を出してしまうと、消化不良を起こし、返ってその効果が薄くなってしまいます。1つの教材を、一人で全て解けるようになるまでやりきり、その教材をベースとして新しい知識を書き込んで補うことによって、必要な情報が詰まった、自分専用の参考書が出来上がるのです。

では、カイチの冬期講習ではどのような教材

が選ばれているのでしょうか。小学生、中学1・2年生の冬期講習教材は、前学期・前学年の学習の総まとめであることはもちろん、1週間半という短い時間であってもしっかりと終わらせることができるよう、内容が効率的にまとまり、厳選されたテキストを使用します。また、テキストの内容が丸暗記でなく、問題を解く力として身につけているのかをチェックするための小テストも毎回実施します。各単元の内容をしっかりと復習しながらテキストを解き、わからない箇所を質問して、一人で問題を解く力が身につけていないと、小テストに合格することはできません。小テストの合格を小目標として、日々の学習に取り組んでください。この目標を達成し続ければ、自ずと模試での成績は上がっていきます。



ンピュータに間違えた箇所を入力することによって、弱点の類題が出されます。このプリントを、一人で満点にできるまでやりきります。どちらの講座であっても、指定された教材を一人で解けるまでやりきることで、確実に復習を行い、模試の成績アップだけでなく、次の学年で好スタートを切ることができます。



中学3年生にとっては、この冬期講習が3年間の総仕上げ。私立高校の過去問演習を通して、3年間の徹底復習を行います。授業では、過去問演習の後、基礎問題から、周りとの差をつける応用問題まで、入試での得点力につながる解説を行います。授業での解説だけでなく、その後の各自の復習・質問によって、その過去問を全て理解し、次の過去問に挑みます。このような徹底した演習・解説授業で、弱点を発見・克服し、毎日確実にレベルアップしていきます。個別中学3年生も、志望する私立高校の過去問の演習・質問・やり直しを通して、復習を行いながら、本番での得点力を身に付けていきます。

12月・1月は、クリスマスにお正月と、イベント盛りだくさんです。これらのイベントも思いっきり楽しめるよう、指定された教材を最後までやりきりましょう。平成最後の冬は、「勉強をやりきる冬」に、「レベルアップする冬」にしましょう!